



そこで、係活動を指導する際の留意点としては次の3つくらいを考えます。

- 自分たちの係が学級全体にどのような効果があるかを考えさせて組織する。
- 人数は4～6名程度にし、希望が多い係では係の仕事内容を分担したり統合したりさせる。
- 課外活動が多くなりがちなので、短時間内で効果的な活動をさせるようにする。

---

## 2 学級通信を考える～その15：話題を集める

山口市立平川小学校 梶田崇晴

---

さあ～て、学級通信を書こう！と思い立ってはみたものの、書くことが思いつかないってことはありませんか。

今回は、学級通信に書く話題を集めることについてまとめてみたいと思います。

私は根っからの朝型人間です。

午前4時から5時の間に起き、仕事をするというパターンをかれこれ20年近く続けています。当然、学級通信を書く時間というのも朝でした。

そこで問題になるのが、書く話題のことなんです。以前は「さあ書くぞ」と思ったとき、前日のことなどをすぐに思い出していたのですが、記憶力というものはいだんだんと落ちていくものようで、詳しい部分を忘れてしまうことが多くなってしまいました。

そこで、「これは通信に書けそうだ」と思うことがあったら、記録していくようにしました。その場でメモできれば一番いいのですが、当時使っていた備忘録は大きくてもって歩くのも大変だったので、毎日、中間休みや昼休みにメモ書きするようにしました。

その後、記録メモ用紙を専用につけてそれに書くようにしました。これはポケットに入る大きさのものでしたので、その場でメモすることも可能になりました。

付箋紙を使うと能率よく記録することが出来ますよ。ただし、これを書き忘れた場合にはアウトですが…。

私が記録していたのは、その出来事にかかわった子どもの名前と、その時に思ったことなどでした。

---

## 3 中国学級活動ネットワークin米子 報告9～調査官の話その5

---

今回は、教育改革でキーワードになっている「人間力の育成」についてお話されたところを紹介します。

「人間力の育成」について、今まで文部科学省は「生きる力」と言ってきた、総務省、厚生労働省、それから経済産業省は「人間力」という言葉を使ったのだそうです。つまり職業人として普通に働ける人間をつくらうということだそうです。それを教育内容としてどうしようかということが、今、議論になっているということです。

学力をきちんと付けるということは大事なことであるけれども、それを優先しすぎて、人間性や体はどうでもよいというような扱いになっていないかということが問題だということです。経済界の方に「勉強がものすごくできる人と、人間がすごくいい人の、どちらを採用しますか」と聞いたら、企業のほとんどが人間性と取ると言われたそうです。これは、バランスの取れた教育を私たちはしているかというものを問われているということです。どんなところに行っても最低限の生活ができて、幸せに過ごせる、そんな子どもをつくるのが公教育の役割ではないかと言われました。私たちがつい忘れてしまいがちな視点だなあと思いました。これから求められている職業人とは、辛いことも我慢して働けて人間関係がつかれるということ。そういう力が育っていれば、どこでもやっつけていけるということです。そのために、私たちは、子どもたちを学校で働かせているかということが大事であるということです。嫌な仕事をきちんとやるということはとても大事なことで、そして、いつも気のあった人間ばかりじゃなくて、たまには気の合わない人間とも一緒にやるということも大事だということです。学級の中でいじめ問題もない、トラブルも起きない。もしそういう学級があるとしたら、それは見せかけで、そんなことはありえないと言われました。人間と人間が一緒にいれば、摩擦が起こるのは当たり前です。人間はやっぱり人間でしか磨けないということです。そういう相手をどうつくるかということが大事だと調査官は言われました。

教育課程の構造化というものでは、「生きる力」と「人間力」をイコールとしたのだそうです。その中で「人間力の構成要素」というのは、自己理解をはじめ12項目あるということです。こういうものが育っていけば、人間として当たり前で生活していけるということだそうです。OECDでは、学力だけではなくて、人間性も調査をしようとしているということです。これは道徳と似ている。そのうち特活でやれることは、きちんとやっつけていこうということです（人間関係形成能力・協調性・責任感・責任・権利・勤労・自己理解・自己責任）。それらに取り組むとき大事なことは、十把一絡げにやるのではなく、一人ひとりにどういう課題を持たせるかということです。何となくやっている指導というのは、根拠がないので駄目だということです。自分なりにねらいをもってやらないと、毎日の生活の中でただ流れるだけで、意図的なことをできるかどうかというのが教師の力量だそうです。一声声をかけるのも意図を持ってやるのと、そうでないのではまったく違う。教師にそういう意識があれば、かける声も言葉がけも違って来る、と言われました。わざわざ休みの日にお母さんがいるような日に電話して「お母さん、昨日は本当にこの子はすごかったんですよ。授業中にこんな発表をして驚きました」と言うのだから教育なのだそうです。ものすごい教育力。問題は、そういうやり方を相手に合わせて行えるということ。そういうことがちゃんと分かっている先生なのかということが重要だということでした。

-----  
4 メルマガ編集部からのお知らせ  
-----

◆次号の予告◆◇◆

第34号は6月上旬ごろ発行予定です。

次号は、「係活動」について第5弾をお送りする予定です。

原稿の投稿がありましたら、そちらを優先することがあります。

◆山口学級活動ネットワーク メールマガジンの登録について◆◇◆

現在の購読者は156名です。もっともっとメルマガ仲間が増えるといいなと思っています。お知り合いの方にこのメルマガを紹介してください。

登録については、山口学級活動ネットワークのホームページをご参照ください。

url: <http://www.yamakoshu.org/gakkatu-net/>

◆実践投稿のお願い◆◇◆

読者のみなさん、みなさんが取り組まれている情報を送ってください。特活の実践を広げ、共有していきましょう。

6月は梅雨の時期。そこで、室内でできる簡単なイベントについて情報交換したいと思っています。簡単な準備でできるイベントを紹介してください。

本メールマガジンでは、今後、以下のようなことについての情報を交流し合いたいと考えています。どんな小さな事でもけっこうです。情報をお待ちしています。

<実践投稿のヒント>

7月頃 夏休み前の学級経営・1学期のまとめ

8月頃 子どもとのつながりを考える

9月頃 2学期スタートの学級経営・運動会と学級をつなぐ取組み

10月頃 意欲的に行事に取り組む手だて

11月頃 学級目標の見直し・音楽会と学級づくり

12月頃 お楽しみ会の在り方・年賀状と学級づくり

1月頃 新年の誓い・新たな気持ちを学級づくりに生かす

2月頃 文集づくり・6年生を送る会のシナリオ

3月頃 お別れ式の持ち方・先生の通知票

以下のアドレスまでよろしくお願ひします。

sugi-net@c-able.ne.jp

=====

山口学級活動ネットワーク メールマガジン

☆ご感想・ご意見はsugi-net@c-able.ne.jpまで

☆編集・発行 山口学級活動ネットワーク メールマガジン編集部

梶田崇晴（山口市立平川小）

津村元文（防府市立西浦小）

能勢雅子（山陽小野田市立高千帆小）

吉田哲朗（山口大学附属山口小）

=====